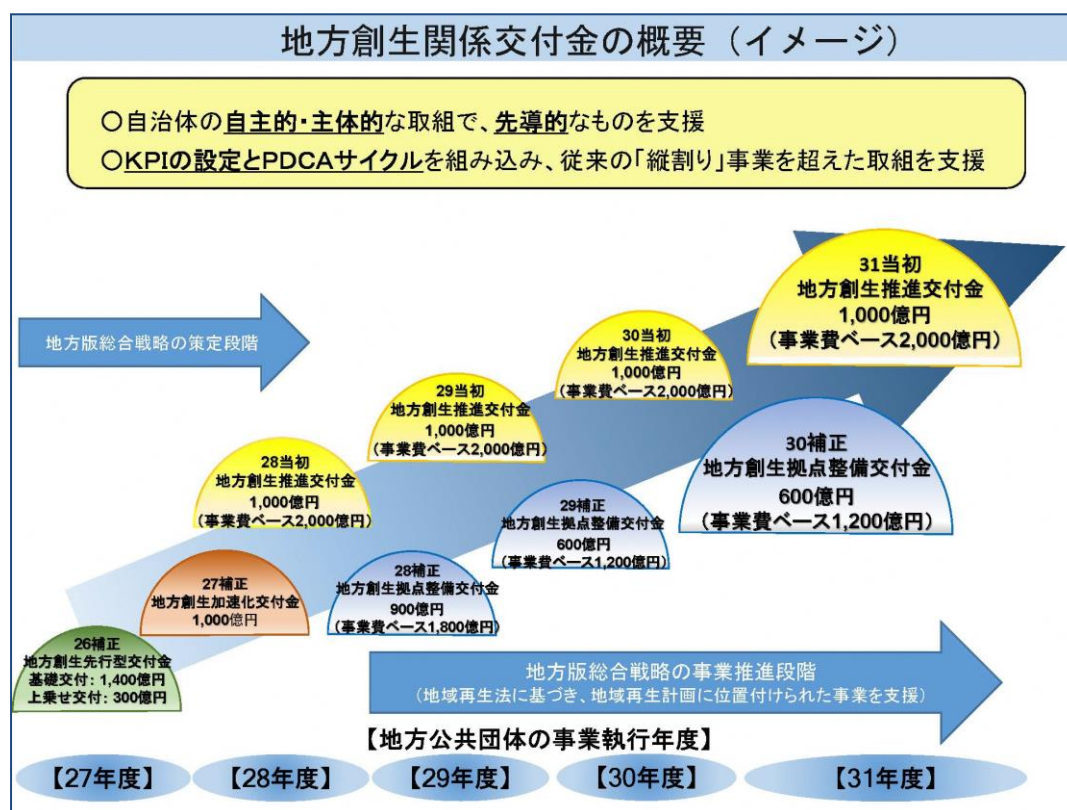


地方創生関係交付金等事業の進捗状況（2018年度）

1 地方創生関係交付金の概要

地方版総合戦略の策定および実施に当たり、国が、地方公共団体が適切な効果検証の仕組みを伴いつつ自主性・主体性を最大限に発揮できるようにするための財政的支援として、次のような交付金を創設している。



2 交付金事業の検証について

交付金事業については、事業の推進状況を測るために重要業績評価指標（KPI）を設定することとなっている。その上で、KPIを用いて事業の進捗・達成状況等により検証を行うとともに、学識経験者等の第三者の意見を聴取することが国から求められている。

3 平成 30 年度（2018 年度）地方創生関係交付金等事業一覧

①地方創生推進交付金

シート No.	事業名	交付金 対象事業費	交付金額	頁
1	ルートミュージアム構築によるにぎわい創出事業	13,375 千円	6,625 千円	4

シート No.	事業名	交付金 対象事業費	交付金額	頁
	三浦半島魅力最大化プロジェクト推進事業※ ※神奈川県および三浦半島 4 市 1 町による連携事業	—	—	5
うち、横須賀市実施事業				
2	訪日外国人アクセス環境向上事業	16,620 千円	8,310 千円	7
3	住むまち横須賀魅力体験・発信事業	15,663 千円	7,832 千円	9
4	マリンスポーツによるまちづくり事業	15,000 千円	7,500 千円	11

②地方創生拠点整備交付金

シート No.	事業名	交付金 対象事業費	交付金額	頁
5	うみかぜ公園スケートボードパークリニューアル事業 *事業実施は平成 29 年度（2017 年度）	— (50,050 千円)	— (24,895 千円)	12

③地方創生応援税制（企業版ふるさと納税）※

シート No.	事業名	交付金 対象事業費	寄附額	頁
6	ドローン産業集積推進事業	3,611 千円	(1,000 千円)	13

※国が認定した地方公共団体の地方創生プロジェクトに対し企業が寄附を行った場合に、寄附額の 3 割を当該企業の法人関係税から税額控除する制度。従来からの損金算入による軽減効果（寄附額の約 3 割）と合わせて、寄附額の約 6 割が軽減される。

4 事業別調書

検証シート 1

		①地方創生推進交付金				
事業名	ルートミュージアム構築によるにぎわい創出事業	担当部課	文化スポーツ観光部文化振興課			
総合戦略基本目標	1 市内経済の活性化を図り、雇用を創出する	中柱	(3)	小柱	①	

事業目的	市内に点在する近代歴史資産を整備することで、その価値に対する理解の向上を図るとともに、拠点から拠点へと回遊性向上を目指した「ルートミュージアム」の構築を推進する。 ルートミュージアムの中核拠点となる「(仮称)横須賀市近代遺産ガイドランスセンター」の建設(2020年度)を契機として、中心市街地に人を呼び込み、他の地域へ誘導するため、歴史や文化、グルメなど観光客の来訪動機に合わせた事業を展開し、にぎわいの創出を推進する。					
事業内容(交付金対象)	<ul style="list-style-type: none"> 近代遺産デジタルコンテンツ等の制作 ペリー記念館設備の充実 ルートミュージアムのガイド育成 走水低砲台跡地の整備 					
交付金対象事業費	H28(2016)	H29(2017)	H30(2018)	H31(2019)	H32(2020)	総事業費
計画額			13,375,000 円	15,026,000 円	5,607,000 円	34,008,000 円
実績額			13,375,120 円			13,375,120 円
事業実績(2018年度)	<p>1 横須賀製鉄所(造船所)をテーマとしたVRコンテンツの制作 日本初の近代的な工場で、現在は通常非公開となっているドライドックの明治20年頃の全貌を捉えたVRコンテンツを制作(VRパノラマ画像や動画は、ヴェルニー公園付近でのみ視聴可)</p> <p>2 ペリー記念館設備の充実 ペリー来航の地として、ルートミュージアムのサテライト拠点であるペリー記念館の展示を充実させるため、映像機器等を整備</p>					

重要業績評価指標 (KPI) の状況・事業効果

	項目	年度	申請時	H30(2018)	H31(2019)	H32(2020)
KPI①	市内東京湾側の観光客数	目標	—	546 万人	553.5 万人	563 万人
		実績	538 万人	546 万人		
KPI②	市内東京湾側の観光バス利用者の観光消費額	目標	—	1,124,888 千円	1,223,884 千円	1,322,879 千円
		実績	1,036,273 千円	1,135,398 千円		
KPI③	汐入駅周辺地区拠点施設周辺内の商店街空き店舗率	目標	—	7.8%	7.4%	7.0%
		実績	8.0%	6.5%		
KPI④	VRコンテンツの利用者数	目標	—	200 人	500 人	2,000 人
		実績	0 人	0 人		
KPIの分析	VRコンテンツの利用者数については、関係機関等との調整に時間を要し、コンテンツ作成後のリリースが4月に入ってしまったことから、目標未達成となった。 ※2019年5月末時点の利用者:1,568人					

基本目標に対する効果	<ul style="list-style-type: none"> VRコンテンツの制作により、日本近代化の礎となった横須賀の歴史を、多くの人に気軽に分かりやすく理解してもらうための仕掛けづくりができた。 ペリー記念館については、展示内容リニューアル後(2018年度下半期)の来館者が、前年同期間比で約2割増加するなど、サテライト拠点としての魅力の向上に寄与している。
------------	---

	2019年度の実施状況	今後の事業の進め方
今後の方向性	<p>1 VRコンテンツの制作</p> <ul style="list-style-type: none"> 浦賀、久里浜のペリー来航 千代ヶ崎砲台跡および走水低砲台跡 <p>2 ルートミュージアムガイドの育成 観光客の満足度向上、リピーターの増加に向け、ガイド育成研修を行い、観光ガイドの質の向上および均一化を図る。</p>	<p>ガイドランスセンターや砲台跡地(千代ヶ崎・走水)等のハード整備(2020年度)に加え、電車やバスの公共交通機関のほか、観光タクシー、自転車シェアリング等の活用による回遊性の向上に取り組んでいく。</p>

(検証シート 2～4)

①地方創生推進交付金

事業名	三浦半島魅力最大化プロジェクト推進事業	担当部課	—
-----	---------------------	------	---

- * 神奈川県および三浦半島4市1町による連携事業（事業計画等の取りまとめは神奈川県）
- * うち、本市実施事業は、以下「事業計画」欄に下線で示した3事業
- * 本市実施事業の具体的な内容は、7～11ページの「検証シート2」～「検証シート4」に掲載

事業概要	<p>三浦半島は、東京、横浜などの大都市の通勤圏にありながら、海あり、山あり、歴史ありという他の地域にはない優位性を持っている。こうした優位性を活かし、三浦半島の優位性を半島全体のイメージとして、プロモーションし、かつ、県・市町の様々な施策を訴求対象別の施策としてまとめあげ、事業効果を最大化する「司令塔」として三浦半島地域連携DMOを設立することで、半島全域の観光プロモーションやマーケティングと戦略推進などによる交流人口の増加を進める。</p> <p>また、三浦半島での充実したライフスタイル等の情報について拠点を整備して発信することにより、移住促進による人口減少の歯止めを図る。</p> <p>これらの取組みを支えるものとして、基盤づくりや地域資源の磨き上げおよび地域課題への対応を市町が行うことにより、民間主導による地域経済の循環を生み出す先導的なモデルづくりを進めるものである。</p>
事業計画 (2018年度)	<p>I 三浦半島地域連携DMOを司令塔としたプロモーションの推進</p> <p>1 DMOによる事業全体の下支え</p> <p>ア 三浦半島地域活性化推進事業【県】</p> <p>II 観光による交流人口の増加</p> <p>1 観光客（全般）への訴求</p> <p>ア 海の駅‘うらり’セールスプロモーション事業【三浦市】</p> <p>イ 回遊性向上のための環境整備事業【三浦市】</p> <p>ウ 観光客訴求イベント事業【葉山町】</p> <p>2 観光客（海志向）への訴求</p> <p>ア 海の魅力向上に向けたイベント【鎌倉市】</p> <p>イ ファミリー層に訴求するイベント【逗子市】</p> <p>3 観光客（健康志向）への訴求</p> <p>ア ヘルシータウン事業【鎌倉市】</p> <p>4 観光客（外国人）への訴求</p> <p>ア <u>訪日外国人アクセス環境向上事業【横須賀市】</u> → <u>検証シート2 (p.7)</u></p> <p>III 移住促進による人口減少への歯止め</p> <p>1 半島外移住（移住志向）への訴求</p> <p>ア 半島ライフ発信事業【県】</p> <p>イ <u>住むまち横須賀魅力体験・発信事業【横須賀市】</u> → <u>検証シート3 (p.9)</u></p> <p>ウ 鎌倉ライフプロデュース事業【鎌倉市】</p> <p>エ 三浦半島ずしトライアルステイ・魅力体験イベント【逗子市】</p> <p>オ トライアルステイ・リノベーションまちづくり事業【三浦市】</p> <p>カ テレワークのモデル事業【逗子市】</p> <p>キ <u>マリンスポーツによるまちづくり事業【横須賀市】</u> → <u>検証シート4 (p.11)</u></p> <p>IV 基盤づくりや地域課題への対応</p> <p>1 基盤整備</p> <p>ア 浜の活力推進事業【三浦市】</p> <p>2 国外企業への訴求</p> <p>ア 三浦漁港グローバルブランディング戦略実践事業【三浦市】</p> <p>3 域内住民への訴求</p> <p>ア ジュニアヨット教室【逗子市】</p> <p>イ ヨット乗船体験【葉山町】</p> <p>4 域内住民（健康志向・高齢者）への訴求</p> <p>ア (仮称)未病改善事業【三浦市】</p>

重要業績評価指標 (KPI) の状況・事業効果

KPI①	三浦半島4市1町における入込観光客数	年度	申請時	H28(2016)	H29(2017)	H30(2018)	H31(2019)
		目標	—	3,770万人	3,850万人	3,930万人	4,000万人
		実績	3,690万人	3,723万人	3,661万人	※集計中	
		実績(本市)	785万人	825万人	821万人	857万人	
		本市の状況	・主にヴェルニー公園、ソレイユの丘の来園者数が増加し、前年度と比べて36万人の増となった。また、基準年である2014年と比べると、大型遊具やキャンプ施設の設置などのリニューアルを行ったソレイユの丘への来園者数が増加した影響などにより、72万人(785万人→857万人)の増となっている。				
KPI②	三浦半島4市1町における社会増減	年度	申請時	H28(2016)	H29(2017)	H30(2018)	H31(2019)
		目標	—	▲1,180人	▲780人	▲380人	0人
		実績	▲1,582人	▲768人	▲566人	▲630人	
		実績(本市)	▲1,785人	▲1,266人	▲1,112人	▲1,352人	
		本市の状況	・基準年である2015年は、本市(▲1,785人)および三浦市(▲185)のみが社会減の状況であった。 ・本市においては、2018年についても依然として社会減が続いている状況だが、基準年である2015年と比べると、減少数が433人抑制(▲1,785人→▲1,352人)されており、結果として半島全体の目標達成に寄与している。 ※本市における2018年と2015年の増減内訳 転入 244人増 (2015:12,815人→2018:13,059人) 転出 189人減 (2015:14,600人→2018:14,411人)				
KPI③	各種イベント参加者数	年度	申請時	H28(2016)	H29(2017)	H30(2018)	H31(2019)
		目標	—	50,000人	53,000人	56,000人	60,000人
		実績	—	96,366人	124,945人	140,880人	
		実績(本市)	—	61人	33,107人	49,669人	
		本市の状況	・本指標における本市の対象事業は以下の3項目 (1)外国人向けモニターツアー等 参加者数 152人 (2)横須賀魅力体験モニターツアー等 参加者数 517人 (3)ウインドサーフィンワールドカップ横須賀大会 来場者数 約49,000人 ・特に、ウインドサーフィンワールドカップには多くの来場者があり、目標達成に大きく寄与している。				

検証シート 2

		①地方創生推進交付金			
事業名	訪日外国人アクセス環境向上事業 (三浦半島魅力最大化プロジェクト推進事業)	担当部課	文化スポーツ観光部観光課		
総合戦略 基本目標	1 市内経済の活性化を図り、雇用を創出する	中柱	(3)	小柱	①

事業内容 (交付金対象)	<p>三浦半島特有の米海軍横須賀基地(以下、「ベース」)関係者を含む外国人が、横須賀市をはじめとする三浦半島を自由に周遊し、活発に消費できる環境を整え、三浦半島全体をインバウンドに強い地域にする。</p> <p>それに向け、ベース関係者を含む外国人調査員(モニター)に三浦半島の地域資源を例示し、移動してもらい、周遊時の不安や地域資源の魅力等に関する意見を収集の上、課題抽出および分析を行う。</p> <p>併せて調査結果を用いた観光関連事業者に対する受入環境整備研修を開催し、外国人観光客の受入意識の啓発を図る。</p>					
-------------------------	---	--	--	--	--	--

交付金対象事業費	H28(2016)	H29(2017)	H30(2018)	H31(2019)	H32(2020)	総事業費
計画額	—	40,673,000 円	16,621,000 円	4,556,000 円	/	61,850,000 円
実績額	—	37,364,727 円	16,620,121 円			53,984,848 円

事業実績 (2018年度)	<p>1 外国人向けモニターツアーの実施</p> <p>(1) 観光テーマに関する調査 モニターツアーのルート作成を行うため、在日外国人およびベース関係者を対象とした調査を実施。 調査は、三浦半島に対するイメージ調査および横須賀市・三浦市の観光地(10カ所)を対象とした現地ツアー(採点評価)により行い、調査結果に基づいてインバウンド向けモデルコースのテーマを設定。 ＜テーマ1＞日本とアメリカ文化の融合「独自の歴史文化を感じることができる横須賀」 ＜テーマ2＞自然を楽しみ、癒される「リラックス&アクティブ横須賀」</p> <p>(2) 周遊観光環境に関する調査(モニターツアーの実施) 在日外国人およびベース関係者を対象としたモニターツアーを実施。上記2つのテーマに沿った資料(観光施設の紹介と交通アクセス)を参加者に配布し、自由に周遊してもらう。 旅行者の満足度・推薦度や動線確認、公共交通機関の利便性・改善点、情報入手経路等をアンケートで調査。</p> <p>2 受入事業者向け観光研修の開催 市内事業者向けに、本市への外国人観光客獲得に向けたセミナーを実施。外国人旅行者の情報入手経路や環境整備に関する課題等を共有。 実施日:2019年1月29日 参加者 32社 54人 ※横須賀商工会議所等との連携のもと参加事業者を募集</p> <p>3 モデルルートの効果検証 上記調査結果に基づき、横須賀市を周遊する観光モデルルートを設定し、周遊を促すためのパンフレットを作成。パンフレットは、調査結果を踏まえた内容(公共交通機関の乗車方法の掲載等)にするとともに、調査で把握した情報入手経路を活用して配布・発信し、効果を検証。</p>					
--------------------------	--	--	--	--	--	--

重要業績評価指標 (KPI) の状況・事業効果							
	項目	年度	申請時	H28 (2016)	H29 (2017)	H30 (2018)	H31 (2019)
KPI①	三浦半島4市1町における入込観光客数	目標	—	3,770 万人	3,850 万人	3,930 万人	4,000 万人
		実績	3,690 万人	3,723 万人	3,661 万人	※集計中	
		実績(本市)	785 万人	825 万人	821 万人	857 万人	
KPI②	三浦半島4市1町における社会増減	目標	—	▲1,180 人	▲780 人	▲380 人	0 人
		実績	▲1,582 人	▲768 人	▲566 人	▲630 人	
		実績(本市)	▲1,785 人	▲1,266 人	▲1,112 人	▲1,352 人	
KPI③	各種イベント参加者数	目標	—	50,000 人	53,000 人	56,000 人	60,000 人
		実績	—	96,366 人	124,945 人	140,880 人	
		実績(本市)	—	61 人	33,107 人	49,669 人	
KPI に対する効果	<ul style="list-style-type: none"> 外国人向けモニターツアー等の参加者数 計 152 人 [KPI③の内訳] 						
基本目標に対する効果	<ul style="list-style-type: none"> 外国人が求める観光テーマの設定や、テーマに基づく2つの観光モデルルートの確立、効果の高い情報発信手段など、今後のインバウンド施策に向けた実用的なデータを得るとともに、実証実験により、これらの取り組みの有効性を確認することができた。 また、受入事業者に対してデータに基づく報告・セミナーを実施したことで、外国人受入に対する課題をより具体的に共有することができた。 						
今後の方向性	2019 年度の実施状況			今後の事業の進め方			
	<ol style="list-style-type: none"> 外国人旅行者向け英語版 Facebook ページの構築 外国人旅行者向け実践型※英語版ガイドブックの作成 ※交通機関の利用方法やWi-Fiスポットなど、外国人旅行者が感じる不安点を解消するための情報を掲載 			<ul style="list-style-type: none"> 米軍基地関係者および関東圏の在日アメリカ人(外国人特派員、記者クラブ等)に加え、訪日外国人をターゲットに据え、本事業で作成したツールを用いて本格的にインバウンド施策を推進していく。 また、観光施設や交通事業者、宿泊施設等と連携し、観光案内、交通案内等の多言語化を推進するなど、受入環境を整備していく。 			

検証シート 3

①地方創生推進交付金

事業名	住むまち横須賀魅力体験・発信事業 (三浦半島魅力最大化プロジェクト推進事業)	担当部課	政策推進部都市魅力創造発進課 都市部まちなみ景観課			
総合戦略 基本目標	2 定住を促す魅力的な都市環境をつくる		中柱	—	小柱	—

事業内容 (交付金対象)	<ul style="list-style-type: none"> ・ 商工会議所、京浜急行、不動産業者等の民間事業者と協力し「住むまち」横須賀の魅力が体験できるツアーなどを実施。併せて横須賀の「住む」魅力を積極的にプロモーションし、市外へ情報を発信する。 ・ また、住宅ストックの循環促進に向けた住まい活用フェアの開催や、空き家の利活用促進のための支援を行う。 					
-----------------	--	--	--	--	--	--

交付金対象事業費	H28(2016)	H29(2017)	H30(2018)	H31(2019)	H32(2020)	総事業費
計画額	—	33,541,000 円	19,251,000 円	18,162,000 円		70,954,000 円
実績額	—	26,592,329 円	15,663,262 円			42,255,591 円

事業実績 (2018 年度)	<p>1 「住むまち」横須賀のプロモーション 都市魅力を体感できるツアーの実施および各種媒体での多面的な情報発信を実施。加えて、新たな都市魅力の創出を目的として、音楽オーディションイベントを開催。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 横須賀の魅力体感モニターツアーの実施（5回） ・ 交通機関を活用した情報発信（7回） ・ FM ラジオと連携したツアーの開催や、特別番組の制作放送 ・ コミュニティ紙を活用した情報発信（3回） ・ メディアを対象とした市内視察ツアーの実施（6回） ・ メディアと連携したイベント開催など（4回） ・ 横須賀から世界へ羽ばたく音楽アーティストを発掘するオーディションイベントの開催（観覧者 258 人、オーディション応募組数 127 組） <p>2 住宅ストックの循環促進</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 空き家所有者・管理者向け相談会の開催（3回） 相談会に寄せられた相談件数 34 件 ※会場（町内会館等→市役所正庁）および開催日（土曜日→開庁日）を変更し、相談会に特化した形態にした結果、相談件数が大きく増加（13 件→34 件） 					
-------------------	--	--	--	--	--	--

重要業績評価指標（KPI）の状況・事業効果

	項目	年度	申請時	H28(2016)	H29(2017)	H30(2018)	H31(2019)
KPI①	三浦半島4市 1町における 入込観光客数	目標	—	3,770 万人	3,850 万人	3,930 万人	4,000 万人
		実績	3,690 万人	3,723 万人	3,661 万人	※集計中	
		実績(本市)	785 万人	825 万人	821 万人	857 万人	
KPI②	三浦半島4市 1町における 社会増減	目標	—	▲1,180 人	▲780 人	▲380 人	0 人
		実績	▲1,582 人	▲768 人	▲566 人	▲630 人	
		実績(本市)	▲1,785 人	▲1,266 人	▲1,112 人	▲1,352 人	
KPI③	各種イベント 参加者数	目標	—	50,000 人	53,000 人	56,000 人	60,000 人
		実績	—	96,366 人	124,945 人	140,880 人	
		実績(本市)	—	61 人	33,107 人	49,669 人	
KPI に対する効果	<ul style="list-style-type: none"> ・ 横須賀の魅力体感モニターツアーの参加者数、音楽オーディションイベントの観覧者数等計 517 人 [KPI③の内訳] 						

<p>基本目標に対する効果</p>	<p>1 「住むまち」横須賀のプロモーション</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 魅力体験モニターツアーおよび新たな都市魅力創出として取り組んだ音楽オーディション等について、さまざまな手法により情報発信した結果、本市の都市魅力を発信するホームページや関連 SNS の閲覧数が、平成 29 年度の約 1.5 倍となった。 ・ 魅力体感モニターツアーの参加者アンケートでは、これまでと同様、全体の 9 割以上が参加前と比べて本市に対するイメージがよくなったと回答しており、本市を「魅力的なまち」として意識化するという点において一定の効果があった。 <p>2 住宅ストックの循環促進</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 住宅ストックの循環促進については、引き続き相談会を通じて、空き家所有者・管理者に対して中古住宅の流動化に向けた働きかけを行う機会を創出した。 	
<p>今後の方向性</p>	<p style="text-align: center;">2019 年度の実施状況</p> <p>1 「住むまち」横須賀のプロモーション</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 魅力体感モニターツアー等を通じた情報発信の継続 ・ 新たな都市魅力創出に向けた取り組みの推進 ・ 音楽オーディションイベントでのデザイン部門の新設 <p>2 住宅ストックの循環促進</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 2018 年度に行った開催方法の変更による効果を踏まえ、当面は同様の形で相談会を継続する。 	<p style="text-align: center;">今後の事業の進め方</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 魅力体感モニターツアーにより、市外在住者に対して市民が感じる都市魅力を伝えるとともに、交通広告やラジオでの発信、コミュニティ紙等、費用対効果の高いプロモーションを継続する。 ・ また、新たな都市魅力の創出に向け、継続的に音楽オーディションイベントを開催するほか、アートをテーマとする取り組みを行う。

検証シート 4

①地方創生推進交付金

事業名	マリンスポーツによるまちづくり事業 (三浦半島魅力最大化プロジェクト推進事業)	担当部課	文化スポーツ観光部企画課			
総合戦略 基本目標	1 市内経済の活性化を図り、雇用を創出する		中柱	(3)	小柱	②

事業内容 (交付金対象)	ANAウインドサーフィンワールドカップ横須賀・三浦大会実行委員会への負担金					
交付金対象事業費	H28(2016)	H29(2017)	H30(2018)	H31(2019)	H32(2020)	総事業費
計画額	10,000,000円	10,000,000円	15,000,000円	15,000,000円		50,000,000円
実績額	10,000,000円	10,000,000円	15,000,000円			35,000,000円
事業実績 (2018年度)	<ul style="list-style-type: none"> 前年度に続き、2回目となるウインドサーフィンワールドカップを開催し、約49,000人が来場した。[大会日程 2018年5月10日～15日] ※2017年度来場者数:約33,000人 課題であった競技の見せ方への対応(大型ビジョン増設、海上からの生中継等)や風待ち時でも楽しめるイベント(音楽ライブ等)を充実させるなど、来場者の満足度向上を図った。 					

重要業績評価指標 (KPI) の状況・事業効果

	項目	年度	申請時	H28(2016)	H29(2017)	H30(2018)	H31(2019)
KPI①	三浦半島4市1町における入込観光客数	目標	—	3,770万人	3,850万人	3,930万人	4,000万人
		実績	3,690万人	3,723万人	3,661万人	※集計中	
		実績(本市)	785万人	825万人	821万人	857万人	
KPI②	三浦半島4市1町における社会増減	目標	—	▲1,180人	▲780人	▲380人	0人
		実績	▲1,582人	▲768人	▲566人	▲630人	
		実績(本市)	▲1,785人	▲1,266人	▲1,112人	▲1,352人	
KPI③	各種イベント参加者数	目標	—	50,000人	53,000人	56,000人	60,000人
		実績	—	96,366人	124,945人	140,880人	
		実績(本市)	—	61人	33,107人	49,669人	
KPIに対する効果	来場者数 約49,000人(目標来場者数40,000人) [KPI③の内訳]						

基本目標に対する効果	<p>ウインドサーフィンワールドカップをきっかけに、地元での地域活性化の取り組みが推進されている。</p> <ul style="list-style-type: none"> 横須賀・海・風をイメージしたご当地商品「横須賀ウインドブルー」(カクテル・洋菓子等)の開発 主に子どもたちへのマリンスポーツの普及活動*を行うNPO法人の設立 ※地元小学校での体験教室や市民スポーツ教室でのウインドサーフィン教室の開催など 近隣ホテルのリゾートホテルへのリニューアル 海岸に隣接する駐車場のウインドサーファーに配慮した駐車場へのリニューアル(ウインドサーフィンW杯記念駐車場)、およびウインドサーファーの来場者数(駐車場利用者数)の増
------------	--

	2019年度の実施状況	今後の事業の進め方
今後の方向性	<ul style="list-style-type: none"> 2019年5月10日～15日に開催 会場を三浦海岸まで拡大し、「OTODAMA SEA STUDIO」とタイアップした音楽フェスやフラのギネス挑戦、熱気球の体験搭乗など各種体験イベントを充実 目標来場者数70,000人を上回る約88,000人の来場があった 	<ul style="list-style-type: none"> 次年度も大会を継続して実施するため、国際競技団体と調整を行うなど、準備を進めるとともに、地元の活性化に向けた自主的な活動を後押ししていく。 併せて、新たな大会や合宿等の誘致に取り組んでいく。

検証シート 5

②地方創生拠点整備交付金

事業名	うみかぜ公園スケートボードパークリニューアル事業	担当部課	港湾部港湾建設課			
総合戦略基本目標	1 市内経済の活性化を図り、雇用を創出する			中柱	(3)	小柱 ②

事業目的	うみかぜ公園スケートボードパークの全面リニューアルを実施することにより、「スポーツのまちづくり」の一翼を担う施設としてその魅力を高め、横須賀市への集客促進、市内消費の拡大を図る。					
事業内容(交付金対象)	うみかぜ公園スケートボードパークの全面リニューアルを実施する。					
交付金対象事業費	H28(2016)	H29(2017)	H30(2018)	H31(2019)	H32(2020)	総事業費
計画額	—	50,393,000 円	—	—	—	50,393,000 円
実績額	—	50,050,440 円	—	—	—	50,050,440 円
事業実績(2017年度)	<ul style="list-style-type: none"> ・セクション(ジャンプ台等の構造物)のリニューアル セクション 設置8基 改修1基 ・パーク床面リニューアル 全天候型舗装(アスファルト舗装改修) 3,467 m² 					
事業実績(2018年度)	<p><大会> ・全日本フリースタイルスケートボード選手権 2018 (10月13日) ・KING OF FREESTYLE SKATEBOARD 2018 (10月20日)</p> <p><イベント> ・アメスカフェスタ in うみかぜ公園スポーツ広場 (5月20日) : スケートボード・BMX のデモンストレーション&初心者向け無料レッスンのほか、音楽や食、自衛隊等と連携した複合イベント</p> <p>・スポーツ広場ペイントイベント (11月27日) : 地元ペイントアーティスト等によるスケートボードパークのセクションへのペイント</p>					

重要業績評価指標 (KPI) の状況・事業効果

	項目	年度	申請時	H28(2016)	H29(2017)	H30(2018)	H31(2019)	H32(2020)
KPI①	観光客消費額	目標	—	—	434 億円	458 億円	482 億円	506 億円
		実績	386 億円	588 億円	390 億円	452 億円		
KPI②	うみかぜ公園 駐車場使用料 収入	目標	—	—	33,348 千円	33,901 千円	34,454 千円	35,007 千円
		実績	32,242 千円	35,360 千円	31,535 千円	34,628 千円		
KPI③	うみかぜ公園 来園者数	目標	—	—	224,143 人	227,618 人	231,093 人	234,568 人
		実績	217,193 人	214,205 人	195,859 人	189,839 人		
KPIの 分析	酷暑により外でのレジャーが避けられる傾向となったことなどが影響し、7月、8月を中心に、公園全体の来園者は減少した。 一方で、スケートボードパークを含むスポーツ広場に関しては、利用者数は増加している。							

基本目標に対する効果	<ul style="list-style-type: none"> ・大会の継続開催に加え、パークのリニューアルを契機に、音楽や食、アートとの複合イベントが開催されるなど、スケートボードを中心として、交流人口の拡大に向けた新たな動きが生まれている。 ・また、アメスカフェスタ(2018年度)での初心者向けレッスンの開催など、愛好家・競技人口の拡大に向けた取り組みも行われている。
------------	--

今後の方向性	2019年度の実施状況	今後の事業の進め方
	2019年度も引き続き上記2つの大会が開催される予定。	<ul style="list-style-type: none"> ・スケートボードパークを会場とした大会や関連イベントの開催などを通じて、スケートボード以外の目的で来園した人にも魅力や親しみを感じてもらい、パーク利用者および来園者の増加を図る。 ・また、関係部局と連携を図りながら、公園利用者に消費を促す仕組みを検討していく。

検証シート 6

		③地方創生応援税制（企業版ふるさと納税）					
事業名	ドローン産業集積推進事業	担当部課	経済部企業誘致・工業振興課				
総合戦略 基本目標	1 市内経済の活性化を図り、雇用を創出する	中柱	(1)	小柱	①		
事業目的	市内の企業等に対し、無償で飛行実験フィールドを提供し、ドローン関連技術や産業の研究・開発を促し、事業化を支援する。						
事業内容 (対象事業)	<ul style="list-style-type: none"> ドローンフィールドの提供(長坂5丁目地内) 企業等に対する研修の実施(座学・フィールドでの操作研修) モニターツアーの実施 事業化が期待できる企業等を中心としたドローンフィールド体験ツアーを開催 <ul style="list-style-type: none"> ドローン関連展示会等出展補助金の交付(補助率 2/3、限度額 30 万円) 						
対象事業費	H28(2016)	H29(2017)	H30(2018)	H31(2019)	H32(2020)	総事業費	
計画額	5,562,000 円	7,675,000 円	6,627,000 円	6,627,000 円		26,491,000 円	
実績額	3,662,620 円	2,907,509 円	3,610,534 円			10,180,663 円	
事業実績 (2018 年度)	ドローンフィールド使用登録事業者数：33 社 ドローンフィールド使用許可日数：300 日 ドローンフィールドモニターツアーの実施：3月8日 参加者1名（1社） ドローン基礎研修の実施：2月22日 参加者13名（8社） ドローンフィールド使用登録事業者意見交換会の実施：1月25日 参加者22名						
重要業績評価指標（KPI）の状況・事業効果							
	項目	年度	申請時	H28(2016)	H29(2017)	H30(2018)	H31(2019)
KPI①	フィールド使用 企業数	目標	—	70 社	80 社	90 社	100 社
		実績	0 社	26 社	235 社	419 社	
KPI②	ドローンを活用し 事業展開する企業の 創業・新規進出数 (移転は除く) ※累計	目標	—	1 社	2 社	3 社	5 社
		実績	0 社	1 社	1 社	1 社	
KPIの 分析	KPI①：フィールド使用企業数は、さまざまな機会でのフィールドのPRにより、登録企業数が伸びたことに加え、各登録事業者のフィールド使用頻度も増加傾向にあるため、KPIを達成した KPI②：さまざまな産業分野でのドローンの活用が広がりを見せていることから、興味を持っている企業はあるものの、法規制や社会受容性の向上といった課題が多いことや、進出するためのコスト等、さまざまな課題を解決するための時間も必要となることから、実績につながらなかったと考えている。						
基本目標に 対する効果	横須賀リサーチパークと連携した実証実験などが実施されている。						
今後の 方向性	2019 年度の実施状況			今後の事業の進め方			
	利用実績は大幅に伸びており、本事業の認知度は向上している。引き続き利用の推進と市内事業者等との連携を図る。			2018 年度から横須賀リサーチパークと共同で推進しているヨコスカ×スマートモビリティ・チャレンジ事業とも連携し、ドローンを使用した新たなサービスの展開が、地域経済の活性化や雇用の創出につながるように事業を継続していく。			